

# 『若手にやる気！

## リスクアセスメントで安全管理に好循環』

### ～リスクアセスメントを導入した事業場の紹介～

茨城労働局が発表した県内におけるリスクアセスメントの導入率は、平成22年4月現在で31%となっています。リスクアセスメントを導入する事業場が年々増えており、筑西労働基準監督署でも導入を促進しています。

富山コンクリート工業株式会社小栗工場でも今年9月にリスクアセスメントを導入し、社内一丸となって労働災害の防止に取り組んでいます。

今回は、同社の野沢工場長にリスクアセスメントの導入の経過をお聞きしましたので、その秘策をお伝えしたいと思います。

(取材者 筑西労働基準監督署安全衛生課長 深津直哉)



写真 富山コンクリート工業(株)小栗工場

(深津)

今日は、今年9月にリスクアセスメントを導入した富山コンクリート(株)の野沢工場長に導入に至った経過をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

まず、リスクアセスメントを導入したきっかけについては何だったのでしょうか？

(野沢工場長)

リスクアセスメントについては、2、3年前から導入を検討していましたが、なかなかきっかけがありませんでした。そのような中、今年5月に工場で労働災害が発生し、監督署より指導を受けました。その際の指導事項の1つにリスクアセスメントを実施することがあり、今回のきっかけとなりました。

(深津)

リスクアセスメントの導入は労働災害が契機となったようですね。

ゼロからのスタートではいろいろと準備も必要だったと思いますが、リスクアセスメントの導入に当たっては、どなたが中心となりましたか？

(野沢工場長)

直接的には、品質管理課長が中心となり進めました。課長は、製造の責任者としての経験も有していました。さらに製造の職場ごとにその職場の班長さんや責任者の方7名にも

協力願いました。

( 深津 )

リスクアセスメントの導入過程と特に注意した点を教えてください。

( 野沢工場長 )

まず監督署よりいただいた資料を参考にしました。その資料の中に「リスクアセスメントの実施一覧表の記載例」というのがありましたので、最終的にその一覧表を作成することを目的として、項目に沿って進めることにしました。

最初に取り組んだのは「設備等の危険箇所の洗い出し」です。その際に足元、落下物及び機械洗浄（非常作業）を中心に危険箇所を洗い出しました。その作業は、班長さんや責任者の方に中心となってもらいましたが、工事業者の方にも入っていただき、専門業者としての意見を取り入れました。

続いて、危険性のリスクの見積もり、優先度の決定とリスクの低減措置の立案、リスクの低減措置の実施の順に進めていきました。

( 深津 )

今回のリスクアセスメントの導入において、ラインの協力をどのように取り付けましたか？

( 野沢工場長 )

確かに現場がその気にならないとできないと思います。リスクアセスメントを導入する過程で現場からの要望というのもし出てきました。その要望をきちんと聞き入れ、それに対し改善が見られるとまた意見が出てきて、どんどんいい方向に動いていきます。リスクアセスメントを実施する上ではこういったことが大切です。特に若い人たちからの意見がたくさん出てきました。

( 深津 )

現場の意見を聞き入れ、それにきちんと対応することで信頼関係が増していった結果だと思いますが、リスクアセスメントを導入した感想を聞かせてください。

( 野沢工場長 )

一言で言うと危険が減ったと思います。それは設備面以外にも効果があり、具体的には「作業方法がきちんとなりすべて安全側になった」ということです。これまでは正しい作業手順を省略した行動が見られましたが、それがきちんとしたものになりました。

さらに外部の業者にも危険の存在を明示できるようになりました。

( 深津 )

リスクアセスメントが設備面だけでなく、正しい作業手順の順守にも一役買っているということですね。こうした効果が出るのも適切にリスクアセスメントを導入したことが要因としては大きいと思いますが、今後の展開を教えてください。

(野沢工場長)

今後は計画を決めて定期的にリスクアセスメントを実施していきたいと思います。さらに機械の入れ替えや変更を行ったときは実施することになっています。

さらには今ある作業手順に安全手順を加えていきたいと思いますが、リスクアセスメントの結果を活用していきたいと思います。

(深津)

リスクアセスメントは作業方法の見直しにも及ぶもので、その検討結果は安全作業手順に活用できることと思います。

最後にこれからリスクアセスメントを導入しようとしている事業場に一言お願いします。

(野沢工場長)

労働災害が発生してから対策を行うことでは遅いと思います。災害を未然に防ぐことが一番です。当社では、事故がきっかけとなって本腰になりましたが、リスクを未然に減らすことが重要です。リスクアセスメントを導入してよりよい現場づくりを進めていただきたと思います。

(深津)

実際にリスクアセスメントを進めると4つの手順(危険・有害性の特定、リスクの見積り、リスク低減の優先度の設定、リスク低減措置の実施)となりますが、特に危険・有害性の特定は、どこをターゲットにするかということで重要だと思います。その危険箇所の洗い出し作業に工事業者の方に入っていただき、専門的な立場から意見を求めたということはたいへん特徴的だと思いますし、よく工夫された点だと思います。

リスクアセスメントは、事業場の安全衛生担当者が一人で行うことではなく、いろいろな方の意見を聞いて進めることが効果的であり、特に実際の作業を日々行っている製造ラインの方々の意見はたいへん貴重だと思います。

またリスクを減らして災害を未然に防ぐということ、まさにリスクアセスメントの効用だと思いますが、これは昔から言われる「事前の一策は事後の百策に勝る」ということにつながっているのだと思います。

今日はお忙しいところたいへん貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

(取材日 平成22年10月15日)